

第18回 千里浜再生プロジェクト委員会 会議概要

1. 日 時：令和8年3月19日 14:00～16:00

2. 場 所：石川県庁 11階 1102会議室、web形式併用

3. 議事

1) 議事公開の可否について

- ・ 委員長から議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。

2) 千里浜再生プロジェクト委員会 検討資料説明【資料-3】

- (1) これまでの経緯
- (2) 定期モニタリング成果に基づく実態解析
- (3) R6年度の陸上養浜からR7年度の直接養浜の状況報告
- (4) R7年度の陸上養浜の状況報告
- (5) 海上採取・投入の状況報告
- (6) 海上採取箇所の見直し（審議事項）
- (7) 砂浜の海岸保全施設指定に向けた検討
- (8) 気候変動の影響に対する検討
- (9) 海岸保全の意識向上のための取組み（ソフト施策）
- (10) まとめ

3) 議事録及び資料公開の可否について

- ・ 委員長から議事概要及び資料公開の確認が行われ、委員の了承を得た。

第18回 千里浜再生プロジェクト委員会 議事概要

各委員からの主な質疑・意見

(1) これまでの経緯（資料 P3～6）

- ・ 特になし。

(2) 定期モニタリング成果に基づく実態解析（資料 P7～12）

- ・ 砂浜幅が 20m を下回る区間が見られる。ドライブウェイを走る車の通行の制限などはあったか。
 - （事務局）現場で波浪等の状況も考慮し、区間を絞って、冬季に通行止め等の制限を実施した。
 - （委員長）参考資料に通行止めの状況は整理しているか。
 - （事務局）通行規制の一覧を参考資料に整理している。全面通行止めの推移をみると、今年度は夏季(5～7月)の通行止めは減少している。
- ・ P11: 養浜をした箇所は汀線が回復しており、養浜の効果が確認されている。しかし、P9 の No.37 の測線については、令和 4 年度頃より後退が見られている。今後も注意してモニタリングが必要と考える。
 - （事務局）承知した。
- ・ P10: 対策開始後の汀線は長期的には前進していると評価しているが、ここ数年の状況を見ると、養浜量にもかかわらず汀線が後退している可能性もある。千里浜の対策を協議するこの委員会では、汀線変化の状況を丁寧に整理し、共通認識をもって協議していくことが必要。
 - （事務局）承知した。
- ・ （委員長）現在汀線が後退している区間は、既設のリーフの間の区間となっている。その影響で波が発達し、侵食していると考えられる。羽咋と今浜の人工リーフの背後は堆積しており、波浪等の影響を含めて検討を進めてみてはどうか。
 - 平成 27 年度頃に、ドライブウェイ区間の北側が侵食していた。そこで、海上投入や羽咋の人工リーフを整備し、その効果はあったと考えている。現在は、今は羽咋の人工リーフの南側で侵食が進んでおり、養浜を実施している状況である。今後もモニタリングを継続していく必要があるが、最新の令和 8 年 3 月の状況はどうなっているか。
 - （事務局）測量は取りまとめが終わっていないため、詳細な数値についてはお示しできないが、近年と同様の状況であり、顕著な回復は確認されていない。
 - （委員長）今後の汀線の回復のためには、令和 7 年度の直接養浜実施の延長が短いと考えられる。今浜リーフ側に延長を伸ばし、令和 6 年度の陸上養浜と同程度の延長で養浜を実施するとよいと考える。
 - （事務局）承知した。
- ・ P10: 対策実施後のグラフの傾きが示されている数値よりも大きく見えるため、確認すること。
 - （事務局）誤解を招く表現のため、確認し修正する。

(3) R6年度の陸上養浜からR7年度の直接養浜の状況報告(資料P13~19)

- ・ P18: 直接養浜区間の断面変化を見ると、直接養浜実施後の5月の測量と、養浜の盛土イメージと整合していないように見える。令和7年5月の測量はいつ行っているのか。
 - (事務局) 令和7年5月の測量は、直接養浜の直後に実施している。
 - 養浜実施後の断面については確認すること。ただ、直接養浜を実施した後の夏季(5~7月)の通行止めは減少しているため、直接養浜の効果が確認されているという認識でよい。
 - (事務局) 直接養浜の区間は砂浜幅を確保するように実施しており、詳細を確認する。夏季に台風や低気圧の来襲もあったが、直接養浜の効果はあったと認識している。
 - 承知した。

(4) R7年度の陸上養浜の状況報告(資料P20~22)

- ・ 陸上養浜と直接養浜を合わせると、養浜量は10,000 m³となっている。今後も継続していく予定か。
 - (事務局) 今後も実施予定である。
 - 養浜量に対して、汀線の前進傾向は少ないため、効果的な場所に効果的に投入することが重要と考える。
 - 10,000 m³の養浜量で期待できる汀線の前進量は、1m程度だと考えている。今年の養浜量を考えると、今の養浜量でなんとか砂浜を維持しているという認識である。養浜量はこのままでよいのか。
 - (事務局) 令和3年度以降、海上養浜も投入量を多くしている。施工実施可能な期間等を踏まえると現状より劇的に養浜量を増やすことは難しいが、効果的・効率的に養浜を実施し、養浜量を増やす工夫をしており、今後も継続していきたいと考えている。
 - 承知した。
 - (委員長) 養浜量10,000 m³は1か所に実施しているのか。
 - (事務局) 陸上養浜と直接養浜の区間は、資料内に記載しており、それぞれ別の範囲に5,000 m³を実施している。

(5) 海上採取・投入の状況報告(資料P23~29)

- ・ 議事(6)と併せて協議

(6) 海上採取箇所の見直し(審議事項)(資料P30~31)

- ・ 海上採取箇所の埋め戻りについて、採取前と比較して完全に回復していないが、採取量と比較し、どの程度土量が回復していないのか。
 - (事務局) 経年的な土量の集計について、これまでの資料を確認し整理する。
- ・ P31: 海上採取の選定方針の見直しについては、この方針でよいと考える。
 - (事務局) 承知した。

- ・ (委員長)海上採取箇所を見直すことで、養浜に用いる砂の粒形が大きくなり、砂浜の回復が期待できるということか。
 - (事務局)そのとおりである。
- ・ 今後の海上採取は、移動限界水深よりも浅い水深帯で行うということか。汀線への影響が考えられるので、モニタリングが必要と考える。
 - (事務局)移動限界水深より深い水深帯で実施する。移動限界水深より深い水深帯の、比較的浅い範囲を想定している。
 - 移動限界水深より深い水深帯でも、地形が変化することで、波浪が変わるなどの影響が考えられる。
- ・ 海上採取箇所の選定方針について同意するが、シングルビームによるモニタリングを基本とする方針について、今後想定外の状況が確認された際には、必要に応じて追加のモニタリングを実施するとよい。
 - (事務局)承知した。
- ・ シングルビームによるモニタリングに加えて、汀線付近はドローンなどで、高頻度に状況を把握できるような取り組みを実施してはどうか。
 - (事務局)汀線付近への影響の把握の手法については、今後検討する。

(7) 砂浜の海岸保全施設指定に向けた検討 (資料 P32~33)

- ・ P33: 石川海岸と千里浜海岸の違いを教えてください。
 - (事務局)石川海岸は直轄海岸であり、徳光地区で砂浜の海岸保全施設指定がされている。千里浜海岸では石川海岸の事例を参考に、千里浜の砂浜幅が確保されている一部の区間に関して、海岸保全施設指定に関する検討を進めていきたいと考えている。
 - 砂浜を堤防等と同じく海岸の背後地を防護する施設として位置付けることで、災害復旧も可能となる。千里浜海岸でも、砂浜幅が安定している区間については、防護の機能を整理して海岸保全施設指定を検討していくことはよいことであると考えます。
 - (委員長)石川海岸は前面に離岸堤などが整備されている区間で、海岸保全施設指定がされている。千里浜では手取川等の土砂によって自然に砂浜が形成されていることも考慮し、海岸保全施設指定に関して検討を進めていただきたい。
- ・ P33: 指定に向けた課題として、「巡視・点検計画の整理が必要。」とあるが、こういった巡視・点検が必要なのか。
 - (事務局)通常の海岸で実施されている、長寿命化計画などに基づく巡視・点検と認識している。

(8) 気候変動の影響に対する検討 (資料 P34~36)

- ・ 特になし。

(9) 海岸保全の意識向上のための取組み（ソフト施策）（資料 P37～41）

- ・ イベント中の砂浜状況は 20m を下回っている時期はあったのか。また、その際に通行規制等は実施したのか。
 - （事務局）秋のイベント開催時期には、北部の一部の区間で車の通行を止めている時期と区間がある。また、夏季のイベントは砂浜幅が狭くなっている区間で実施している
- ・ この海岸には珍しい昆虫や、小さな魚などが生息している。地元には、自然に関する調査を実施している団体もあるが、自然に関するイベントが少ないため、観察会などのイベントも加えていくべきと考える。
 - （事務局）承知した。今後、検討していく。

(10) まとめ（資料 P42～43）

- ・ 千里浜海岸を対象に、気候変動の影響に対する検討を進めていくということか。
 - （事務局）加越沿岸での検討を踏まえ、個別の検討を進めていく予定だ。
- ・ これまでの委員会では、ボックスモデルで土砂の動態を評価してきたと思うので追加してほしい。
 - （事務局）確認して追加する。
- ・ （委員長）海上採取箇所においてはほとんど埋め戻っていないとあるが、これはなぜか。
 - （事務局）9 月時点での測量であり、海上採取以降に冬季風浪が来ていないため、9 月時点では埋め戻りが発生していない。
- ・ 養浜量を増やしても、砂浜幅が狭いところは回復していない。波浪変形計算などの数値シミュレーションを実施し、実態を解明していくことも必要と考える。今後、気候変動に伴った、海面上昇の影響を評価することも考えられるので、技術的な議論もしてほしい。
 - 気候変動の影響については、別の技術部会や検討会で検討が進められていくと聞いている。その検討結果を踏まえ、この委員会で協議するのがよいと考える。
 - （事務局）承知した。今後、検討していく。